

# 山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター センターだより 第104号（通巻第171号）

---

2012年1月13日発行  
山梨大学教育人間科学部  
附属教育実践総合センター  
TEL 055-220-8325, FAX 055-220-8790  
E-mail: jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp  
URL: <http://www.cer.yamanashi.ac.jp/>

※ このセンターだよりで紹介した研究会、研修、教育フォーラムに関するお知らせは、変更しない限り、自由に複写、配布していただいても結構です。

## ■平成23年度第2回連携・教育研究会（情報教育）のご報告

平成23年11月17日(木)に、山梨市立山梨小学校において、情報教育分科会の、第2回連携・教育研究会を開催しました。今回は、山梨県総合教育センター情報教育部主事研究「小学校における電子黒板の活用に関する研究」の一環として開かれた研究授業及び研究協議会と兼ねて開催されました。小学校4年生の国語科で説明文「アップとルーズで伝える」を読解する上での電子黒板の活用に関して、実践センターの成田雅博准教授が研究協議を行いました。

## ■山梨県教育委員会「第2回 教育相談活動研修会」のご報告

### （山梨大学戦略的プロジェクト経費地域連携事業支援プロジェクト）

山梨県教育委員会主催の「第2回教育相談活動研修会」が12月6日（火）、山梨県総合教育センター内にて開催されました。県内巡回相談員、児童相談所、県総合教育センター、少年サポートセンター（山梨県警）等、計19名の県内教育相談活動関係者が一同に会し、「地域連携 子どもと親と教師のための教育相談事業」位置づけの確認と山梨県の子ども支援事業の現状報告があり、県内の不登校児童生徒数が落ち着いてきたことを確認しました。また、今後の相談体制についても、活発な情報交換が行われました。さらに、相談担当者研修として附属教育実践総合センター谷口明子教授が研修会講師として「保護者に寄り添う教育相談」のタイトルで講演を行いました。

## ■教育ボランティア報告会のご報告

平成23年度「教育ボランティア報告会」が12月14日（水）に、N-11・N-12教室で行われました。「教育ボランティア活動の振り返りを通じて、お互いの学びを共有したり、悩んでいることを相談したりする」ことをねらいに、今年度から新たに始めた会ですが、110名の参加を得て、充実した学びの場にすることができました。

前半は、佐野稚那さん（社会科教育専修4年）・別府大志さん（技術教育専修3年）・菅沼美奈さん

(理科教育専修 3 年)・小林真梨子さん(家政教育専修 2 年)による教育ボランティア体験発表を行いました。4 名の発表はどれも具体的であり、教育ボランティア活動や子どもたちに対する思いをしっかりと伝えてくれました。

後半は、20 のグループに分かれて、「教育ボランティアで学んだこと」というテーマで協議を行いました。それぞれの活動先での経験や学びを発表し意見交換することで、新たな気づきを得たり、今後の活動に生かしたりでき、有意義な会になりました。

以下にグループ討議の発表内容から、いくつかを紹介します。

○教育ボランティアは、教育実習とは違い、継続して一つの学校にかかわれるので、教師の仕事量や学校と地域との関係、学年ごとの子どもの発達段階の違いなど、学校や子どもの実態がより分かる。

○子どものしかり方、子どもへの声のかけ方などに難しさを感じたが、大学での学んだ理論と現場での実態を結びつけることができるので、やりがいを感じる。

○教育ボランティアという立場で、どこまで踏み込んでよいか分からない。先生とボランティア学生の考え方には違いがあることを意識して、いろいろな先生の考えを蓄積し、自分の中に引き出しをいっぱい作ればよい。



**※ 教育ボランティア学生運営委員会では、委員を募集しています！ 教育ボランティアに興味があり、やってみたいという方は J 号館 F4 教育実践センターへ連絡をお願いします。**

## ■平成 23 年度第 2 回連携・教育研究会（教育相談部）のご報告

平成 23 年 12 月 21 日(水)及び平成 24 年 1 月 10 日(火)に、教育相談分科会の第 2 回連携・教育研究会を開催しました。山梨県総合教育センター主事研究への支援として、12 月には授業 VTR の分析資料化の手続きについて、1 月には分析方法を含めて研究のまとめ方について、実践センターの谷口明子教授が研究協議・指導助言を行いました。

## ■平成 23 年度第 3 回連携・教育研究会のご報告

第 3 回連携・教育研究会が 12 月 15 日(木)に、山梨県総合教育センターにおいて開かれました。教育実践総合センター長の本学幼児教育講座加藤繁美教授による講演会と主事研究の分科会「教科・領域」「教育相談」「特別支援教育」「情報教育」が行われました。

講演会は、「子どもの自分づくりと保育・教育の課題～課題としての幼小接続問題～」をテーマに、保育の具体的な事例を交えた講演でした。内容を簡単に紹介します。

幼児の自我形成の過程において、自分の欲求を自己主張する「自我」の中に生きていた子どもが、人間社会がもっているあるべき姿を知り、社会的知性を獲得することによって、「第二の自我」の中で悩み我慢を迫られる時期があります。幼児期は、「自我」（主観的な世界）と「第二の自我」（客観的な世界）をくり返し揺れながら、新しい自分を獲得して「人」になる大切な時期です。

「自我」から「第二の自我」への橋渡しは、親や保護者が、自己主張する子どもを上手に受け止め、適切に切り返すことで行われます。年長くらいになると、「自我」と「第二の自我」を自分でつなげられるようになる「自己内対話能力」が発達します。ところが、この10年あまりで自己内対話能力が崩れつつあり、「5歳児が育っていない」「2歳児が大変」実態が明らかになりました。保育の手に負えない、切れる子どもが現実に出始めてきたのです。荒れる子どもを変えるには、他者と関わる力を育てることも大切ですが、自己内対話能力を育てることが大切であると加藤先生は強調します。

児童虐待相談件数が、20年前から約50倍以上に増加しました。親子の関係の崩れの象徴です。子どもへの適切な関わりができない親が広がっています。深刻な状況として地域社会全体で対応する必要があります。



子どもの要求から発展させる保育を幼小連携のプロジェクトとして実践されている事例を紹介されました。新潟中越地震支援プロジェクトは、子どもの必要性と必然性に沿い、子どもの姿の中から計画が立てられました。银杏拾い、カップ银杏の販売、ポップコーンづくり・販売、被災地への送金という一連の実践でした。この実践をとおして、荒れていた子どもたちが落ち着いてきたと言います。自分のことよりも、より価値のあることへ目を向けて努力する。集団の中で子どもが生活を作り替える経験をとおして、自我形成を支えていく試みでした。大人が計画する活動ではなく、子どもたちの願いを受け止めながら、それを仲間の思いにつなげる教育を組織することが大事であるとのことでした。以上が講演内容の紹介です。

小学校就学前の子どもの教育、特に、2歳児と5歳児の自己内対話能力を育てる教育の大切さを再認識するご講演でした。

## ■ 第1回 Moodle 講習会のご報告

2011年12月15日(木)、2011年度第1回 Moodle 講習会が開催されました。山梨大学では、e-Learning システムである Moodle が総合情報戦略機構の管理するサーバーで運用されていて、すべての科目の授業担当者や履修申告者が登録されていますので、CNS システムからログインすることができます。この講習会は、大学教育研究開発センターの教育力向上開発部門に設置されている「E ラーニング・プロジェクト委員会」が企画・運営していますが、大学教育研究開発センター、総合情報戦略機構とともに当センターも共催しています。

- ・日時：2011年12月15日(木) 16:30~18:00
- ・場所：第一実習室（総合メディア館2階 情報処理教室）
- ・講師：滝口晴生氏（教育人間科学部 国際文化講座）  
吉川雅修氏（工学部 コンピュータ・メディア工学科）
- ・内容：第1部：自動採点小テストの作成および注意点  
第2部：さらに便利な小テスト作成・活用方法

今回の講習会では、「小テスト」作成を行いました。○×問題、多肢選択問題、記述問題の作り方、自動採点の設定の方法などを実習しました。講習の様子については大学教育研究センターの Web をご覧ください。

[http://www.rdc.yamanashi.ac.jp/modules/activity\\_report/index.php?content\\_id=54](http://www.rdc.yamanashi.ac.jp/modules/activity_report/index.php?content_id=54)

## ■ 第2回 Moodle 講習会のご案内

今年度3回開催される e-ラーニングシステムの Moodle についての講習会について、次回の案内をさせていただきます。前回2011年12月15日(木)の講習会は、小テストの作成がテーマでしたが、今回は「課題」モジュールについての講習です。

「課題」モジュールの機能は、レポート提出のほか、授業時のコメントシートや学生のラーニング・ポートフォリオとして活用することができます。Moodle 上に学生が課題を提出することによって、教員は提出状況を簡単に管理することができます。1月17日の講習会ではこのような活用方法について、講師が具体的な活用事例を示すと共に、参加者の先生方には Moodle にログインしていただき、担当されている科目のコース設定で実際に「課題」の設定を行っていただきたいと思えます。

今回の講習会は、e-ラーニングに関する経験は必要ではありませんし、前回の講習会への出席も必要ありません。

多数のご参加をお待ちしております。

なお、第3回講習会は2012年2月7日(火)に開催いたします。

### ● 2011年度第2回 Moodle 講習会概要

- ・日時：2012年1月17日(火) 16:30~18:00
- ・場所：第2実習室（総合メディア館2階）

- ・講師：日永龍彦氏（大学教育研究開発センター）  
伊藤亜希子氏（大学教育研究開発センター）
- ・内容：(1)「課題」モジュールの活用事例：共通教育科目「現代社会と教育」  
—学習日誌・レポート提出・ポートフォリオとして—  
(2)「課題」モジュールの設定方法：  
オンラインテキスト・単一ファイルのアップロード・  
複数ファイルのアップロード・オフライン活動  
(3)「課題」モジュールを使ってみよう：  
レポート課題の設定と提出状況確認
- ・E-ラーニングプロジェクト委員会
- ・総合情報戦略機構
- ・大学教育研究開発センター
- ・教育人間科学部 附属教育実践総合センター

○参加対象者について：この講習会は主に教員を対象としますが、職員や学生も受講できます。

#### ○Moodle の使い方マニュアル

- ・今回や前回の講習会資料を見たい方は、以下の手順で Moodle サーバーにアクセスしてください。
- ・CNS にログインし、右のリンクの中の「E-learning」をクリック。
- ・山梨大学 e-Learning Portal 画面の左下の「e-Learning ログイン画面」をクリックすると Moodle のトップページが開きます。
- ・右下の「マイコース」の一番下、「すべてのコース」をクリックし、下から6番目の「moodle 講習会」をクリックして開き「Moodle 講習会 2011」を選択してください。
- ・1回目のアクセスの時だけ、登録キー（パスワードにあたる）の入力を要求されるので、moodle を入力します。
- ・2回目以降は、右下の「マイコース」の中に「Moodle 講習会 2011」があると思います（無ければすべてのコースから再び検索してください）。
- ・過去の Moodle 講習会の資料も、同様に「Moodle 講習会 2010」等で同じ登録キーを入力することで見ることができます。

## ■ 「教育相談室」及び相談室の備品をどうぞご利用ください

教育相談室（Y-304）をどうぞご利用ください。ご利用に際しましては、事前に教育実践総合センター事務室（J号館4F）にて空き状況を確認の上、ご予約ください。鍵はセンター事務室にあります。利用された場合には、相談室内に置かれた使用簿及び報告書の記載をお願いします。

教育相談室の心理検査やソーシャルスキルを高める児童・生徒用のゲームなど備品も貸し出しております。借りる際には必ず使用ノートにご記入をお願いします。

---

これまでのセンターだよりの一部は <http://www.kjb.yamanashi.ac.jp/centerdayori.html> で見ることができます。